

2 学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年4月18日 第7号
文責:江頭 俊輔

【「どうせ、無理」が続くと、、、】

さて、前回から植松電機の植松社長の TED 公演の内容をお伝えしています。(右図) 私が植松さんの公演の中でとても共感した部分は、この「どうせ、無理」が続くとどうなっていくのか、という話の内容です。



植松電機では、日々多くの見学者を受け入れているそうです。(私も民間でロケット開発に成功した会社にはとても興味があります!) 修学旅行をはじめ、海外からの視察等に対応する中で、植松さんはあるアフリカからの人と話す機会があったそうです。その際にアフリカの方が話した内容が、「アフリカでは教育を思うように受けられず、未来に希望がもてず、何をしても『どうせ、無理』』と考えている人が、他の人から物を盗むようになっている」というものでした。さまざまな理由があり、就職に必要な学習ができない人が何もかも「どうせ、無理』』と考えてしまった結果、力づくで他の人から物を奪うようになるそうです。(アフリカにも法律があり、処罰されるのが前提です。) これでは安心して生活できませんし、頑張っている人も「奪われてしまうなら」と多くの人に「どうせ、無理』』という感情が連鎖していきます。ちょっとした口癖かもしれません。ただ、言葉は思考につながり、やがて行動に移り、それが積み重なることによって習慣が形成されてしまいます。たかが一言、されど一言です。

【Hope invites: 思うは招く】

植松さんの公演のタイトルは Hope invites で、訳すると「思うは招く」となります。いい意味でも悪い意味でも「思うは招く」、考えたことは実際にそうなる、だから「どうせ、無理』』ではなく、「だったら、こうしてみたら?」を口癖にしようということです。

さらに、植松さんは、これを習慣にするために大切なことが「新しいことに挑戦すること」だといいます。新しいことに挑戦すると、成功することもある、失敗することもあります。そもそもその前に、「どうせ、無理』』と思ってしまうこともあるかもしれません。このときに、「だったら、こうしてみたら?」と自分自身に、そして頑張っている周囲の人に伝えていきましょう。そういう機会が大切です。また、AI や 5G をはじめとする技術革新が激しい現代では、「新しいことに挑戦する」こと自体がビジネスチャンスになるはずです。新しい世界を創るために、新しいことに挑戦していきましょう。

新しいことへの挑戦

「だったら、こうしてみたら?」
のチャンス!

「どうせ、無理!」
をなくすチャンス!

【失敗は乗り越えたら、力になる!】

さて、校長先生の話の中では、植松さんの人生をたどりながら、「失敗は乗り越えたら、力になる!」という言葉が印象的でした。失敗はしたくないと思いがちですが、失敗するために新しいことに挑戦したこと自体が「成長のチャンス」です。周囲で笑う人がいるなら、それは挑戦したことがない人です。気にする必要はありません。植松さんも「どうせ、無理』』と言う人は、「やったことがない人だけ」と言い切っています。「だったら、こうしてみたら?」と前向きな口癖が習慣になる人になりましょう。